

学校安全総合支援事業報告書【防災に関すること】

学校名：熊本県立芦北支援学校

住所：熊本県葦北郡芦北町芦北2829-8

電話：0966-82-4627

I 学校の基本情報

- 児童・生徒数：48人（13学級）
本校（小学部5人、中学部2人、高等部4人、
訪問教育11人）
佐敷分教室（高等部26人）
- 職員数：43人
- 熊本地震時の状況
 - ・負傷者 児童生徒、職員に主な報告はなし
 - ・家屋の被災、校内の被害 主な報告なし
 - ・避難所の開設 なし
 - ・臨時休校 なし

II 取組の概要

1 安全教育手法の開発・普及

(1) 防災教育の実施（佐敷分教室）

熊本県教育委員会が作成した「学校防災教育指導の手引」を参考にして、防災教育を実施した。防災教育と避難訓練を関連付けることで、危機管理に対する意識の向上を図り、「自助」のために主体的に行動できる生徒の育成を目指した。また、学んだことを実感として受け止めることができるよう、学習のまとめとして、熊本市広域防災センターと被災した熊本城見学を実施した。

(2) 機能訓練を踏まえた実践的な避難訓練の実施（本校）

津波警報が発令された場合の二次避難として、隣接する「くまもと芦北療育医療センター（以下、センターとする。）」への垂直避難訓練を実施した。

まず、全職員で児童生徒や車いすを抱えて上ることをイメージしながら、センターの外階段を最上階である4階まで上る機能訓練を行った。

後日、地震火災津波避難訓練として一次避難場所であるセンターのロータリーに移動した後、津波警報発令を想定し、センターの外階段の下まで移動した。当日は、

安全面を考慮し、階段を上ることはせず、児童生徒に対して、実際の災害時には階段を上ることになることを確認した。



(3) 防災主任の資質・能力の向上と校内の連携体制の構築

防災主任が、防災管理研修会（6月）、防災教育研修会（8月）に参加した。8月には防災教育に関する研修会にも参加し、宮城県石巻市立鹿妻小学校教頭である柏晃司先生の模擬授業の参観とその後の研究協議で意見交換を行った。また、夏季休業中には先進地視察研修として、兵庫県立尼崎小田高等学校と兵庫県立阪神昆陽特別支援学校を訪問及び学校安全主任講習会「学校危機管理の基礎と実践」（初級）を受講した。これらの研修等に参加することで、防災主任としての資質・能力の向上を図った。

校内においては、佐敷分教室に関することは生徒指導主事、本校に関することは防災主任、渉外関係を管理職が担当する等役割を分担した。また、随時情報交換することで連携体制の構築を図った。

(4) PDCAサイクルに基づく、危機管理マニュアル及び学校安全計画の検証・改善

防災管理研修会（6月）を受け、自校の危機管理マニュアル及び学校安全計画を確認した。その上で、今年度は今まで実施していなかった津波を想定した避難訓練を実施した。まずは現在のマニュアルを基にした訓練を実施することで、見直すべき所を洗い出し、改善へと繋げていった。ま

た、学校安全計画に示している避難訓練や防災教育に関する項目について検証を行った。これらについては、防災士や学校安全アドバイザーからの指導助言を基に改善を図ることとした。

Ⅲ 取組の成果と課題

1 安全教育手法の開発・普及

(1) 防災教育の実施（佐敷分教室）

ア 成果

- a 避難訓練を防災教育後に実施したことで、学んだことを生かし、窓から離れたところを通る等、危険を回避する行動がとれている生徒の姿が見られた。
- b 棚の固定等の予防策と、倒れると危険な物には近づかない等の対応策の両面についての学習を通して、より深く危機管理について考えることができた。

イ 課題

- a 家庭や登下校中等、様々な場面で適切な行動がとれるよう、内容を工夫しながら防災教育を継続していきたい。
- b 授業時数や行事等を踏まえた上で、短時間でも継続できるような時間の確保を目指していきたい。

(2) 機能訓練を踏まえた実践的な避難訓練の実施（本校）

ア 成果

- a 機能訓練を実施したことで、全職員で二次避難の場所や方法等について実際に確認することができた。
- b 消防署や防災士の方に訓練の様子を見ていただき、それぞれの立場からの指導助言をいただくことができた。

イ 課題

- a 垂直避難については、今後さらに具体的な方法を検討し、可能な限り児童生徒も実際に階段を上る訓練を実施したい。
- b 避難経路に障害物がある場合や、防火扉が作動した場合等、様々な想定での訓練を計画し、実践していきたい。また、備蓄品の保管場所や内容等につ

いても適宜見直していきたい。

(3) 防災主任の資質・能力の向上と校内の連携体制の構築

ア 成果

- a 防災主任が研修等で得た情報や知識を踏まえて、計画的に避難訓練や防災教育を実施することができた。先進地視察研修に関しては、報告書を作成して全職員に復講することで情報提供をした。
- b 校内において、防災主任が所属している生徒指導部内で連携を図った上で、管理職とも随時確認を取りながら、避難訓練や防災教育を進めることができた。

イ 課題

- a 自校の実態に応じて、研修等に参加して得た情報や知識を実践の中で活用することで、全職員の危機管理意識の向上につなげていきたい。その上で、防災教育の充実を図っていきたい。
- b 防災主任としての業務内容が幅広いため、生徒指導部だけでなく他の分掌部や、各学部主事との連携体制を整えていきたい。

(4) PDCAサイクルに基づく、危機管理マニュアル及び学校安全計画の検証・改善

ア 成果

津波に関する避難訓練をすることで、危機管理マニュアル及び学校安全計画の中で関連する部分について、見直すべき所を洗い出すことができた。それを踏まえて、より具体的で分かりやすいマニュアルへの改善と、避難訓練等の実施時期や内容について検討することができた。

イ 課題

危機管理マニュアルにおいて、保護者等への児童生徒の引き渡しに関する項目が不足している。合わせて、引き渡し訓練も実施できていない。今後、マニュアルや引き渡しカード等の作成をした上で、訓練の実施に向けて準備を進めていきたい。